

[抄録様式]

公益財団法人 8020 推進財団 平成 24 年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録	
1.	事業名：地域住民と歯科医療従事者とが共に考える新しい学校作り
2.	申請者名： 申請団体名：香川県歯科医師会（会長 豊嶋健治） 担当者氏名：土井孝信
3.	実施組織： 主催：香川県歯科医師会、香川県歯科医師会立香川県歯科医療専門学校
4.	事業の概要： 近年、歯科医療を支える若手の歯科衛生士・技工士が減少している状況に、危機感を抱く歯科医師会会員が多く認められる。そこで、学校施設を県民に開放し、学生教育の一端から実際の臨床現場での応用に至るまで、ここで学ぶ学生が社会にどのように貢献しうるのか、一般の人に馴染みの深い「食への支援」を例に取り上げ、県民に分かりやすく紹介する。これにより県民に、歯の健康および学校への関心・理解が深まることが考えられ、県民の歯の健康の増進に資するとともに、会立学校への入学希望者の増加が期待できる。
5.	事業の内容： 本校は、学生教育を通じて、県民の口腔の機能維持や改善を図ることで、全身の健康あるいは食を含めた質の高い生活を営むことを支援しているが、必ずしもそのことが一般県民に広く知られているわけではない。前年度、学校施設を県民に開放して食に関するセミナーを開催し、学校教育の一端も示したが、今年度はさらに「歯科専展」と題して、学生の学校教育におけるふだんの取り組みを発表、展示したり、『食と環境に関する特別講演』もその中で開催、県民に学校や学生あるいは職業について知ってもらうとともに、学生と県民が直接対話できる場を設け、県民とともに本校の存在意義やニーズを考えることとした。また、昨年度のアンケートで参加者からの要望の高かった歯周病や口腔内の老化、摂食嚥下障害などの知識の普及啓発のためのパネル展示も行った。
6.	実施後の評価（今後の課題）： 今回の歯科専展では、展示物の作成に費用が掛かるため、新聞広告を行わなかったところ、参加者のうち一般県民の数は、昨年度の 73 名から 49 名と落ち込んだ。しかし、様々な感想・意見を聴くことはできた。歯科技工物を作っているのが歯科医師だと思っている人がいたり、歯科技工物作成にかかる時間に驚いたり、歯科技工士の認知度の低さが今後の課題と考えられた。前年度同様、「食」に関連した特別講演も行ったところ、聴講者の反応もまずまずだった。今年度の反省点も踏まえて、来年度はより広く来場者を募り、この行事を地域に定着させるとともに、そこで吸い上げた意見を学生教育にも反映させたい。